

文 化

1. 施策の方向性

- (1) 市民一人一人が文化の担い手として、特色ある市民文化の創造をめざした文化振興に努めるとともに、子どもの頃から身近に多様な文化芸術や伝統芸能を鑑賞し、体験できる機会を持てる環境づくりを行うことにより、創造力豊かで、感動する心を育て、次代を担う「人づくり」施策に努める。
- (2) 優れた文化芸術や伝統芸能に触れ親しむ機会の充実と文化施設の充実・活用を図るとともに、地元の文化団体等に練習成果の発表の機会を提供するなどの文化活動の支援を行い、そのことにより、市民の文化団体・本市の文化を育む人材の育成を図る。また、より多くの市民が鑑賞、参加できるような効果的な広報等に努める。
- (3) 市民が生涯を通じて文化芸術に触れ、楽しめるような文化施設の整備に努め、市民の多様なニーズに対応するとともに、より多くの様々な文化芸術に触れる機会の提供に努める。
- (4) 市内各施設の収蔵品、史跡・文化財、伝統工芸品などの貴重な歴史・文化資産の情報をインターネットにより情報発信することで、それらの資産の素晴らしさを再認識してもらうとともに、魅力のアピール、観光客誘致の宣伝素材としての活用などに努める。
- (5) 未来に継承すべき文化財の保護を図るとともに、本市が管理する文化財の補修・整備を行い、文化財を学習や観光などに活用できる場として提供し、その情報についても各種手法により、広く市民に提供する。
- (6) 発掘する遺跡の公開や発掘成果の積極的公開を進め、学習や体験活動の場として提供する。
- (7) 郷土芸能を後世まで正しく伝承し、地域の絆を保ち、郷土愛を高めるとともに、文化財に対する理解と関心を深める必要がある。
- (8) ふるさと考古歴史館等を活用しながら、本市の歴史・文化に対する市民の理解を深め、文化財愛護思想の高揚を図るとともに、文化財の保護と活用に努める。
- (9) 「九州・山口の近代化産業遺産群」の世界遺産登録を目指す。

2. 事業の概要

(1) 文化振興

① 市民文化祭

毎年、9～12月に市民文化祭を開いている。

謡曲連合大会、いけばな展、薩摩琵琶弾奏大会、茶会、南日本短歌大会、邦楽演奏会、詩吟剣舞道大会、薩摩狂句大会、南日本俳句大会、オペラ公演、バレエ公演、写真展

② ふるさと芸能祭

郷土に伝わる民俗芸能を掘り起こし、広く市民に公開し、伝統芸能に対する理解を深めるとともに、郷土を愛する心を高める。

出演者 郷土芸能保存団体等

③ 鹿児島市少年少女合唱団の育成（昭和48年12月設立）

鹿児島市に在住する少年少女による合唱団を育成し、その演奏活動を通じ、本市児童文化の向上、情操の陶冶を図るとともに音楽文化の向上に寄与する。

④ 椋鳩十児童文学賞

市制施行百周年を記念し、日本を代表する児童文学者椋鳩十氏の業績を永く顕彰するとともに、児童文学の発展に寄与するため平成2年に創設した。鹿児島にあって地方色豊かな数々の名作を発表された椋氏の偉大な功績を讃え、新人の児童文学作品を対象にすることにより、次代を担う児童文学者の発掘を行う。

⑤ 鹿児島芸術鑑賞事業

中央と地元の文化芸術団体による児童生徒などを対象とした芸術鑑賞事業を行い、特に、子どもたちの表現力やコミュニケーション能力の向上を図るため、参加体験型のワークショップ方式を実施するとともに地元の文化団体の育成に資する。

引き続き、旧5町域の方々に芸術に親しむ機会を提供するとともに、22年度から、鹿児島市在住の児童

生徒とその保護者（50組100人）を国内外の優れた舞台芸術鑑賞事業に無料招待する。

⑥ 文化事業の共催

市内の文化団体と共催で文化事業を実施し、芸術文化鑑賞の機会を拡充するとともに文化団体の育成に資する。

⑦ 郷土芸能保護事業

現在保存されている郷土芸能が正しく伝承されるよう、使用する道具や衣装の補修等と運営に要する費用に補助を行う。

⑧ 歴史・文化資産のデジタル化推進

貴重な歴史・文化資産をはじめとして、市内の文化財や伝統工芸品などの情報のデジタル化を進め、インターネットにより情報発信する。

⑨ 文化薫る地域の魅力づくりプラン（仮称）策定事業

本市各地域に伝わる伝統芸能や音楽、美術等の本市ゆかりの文化を掘り起こし、新たな魅力を加え、本市の個性あふれる新たな文化として創造し、鹿児島らしい文化振興、地域活性化を図っていくために、地域住民等と行政が一緒になって取り組む文化振興の観点からの地域の魅力づくりを推進する実践計画を策定する。

(2) 文化財の保護と活用

① 指定文化財の保護・管理

市内には国指定文化財23件、県指定52件、市指定87件の計162件の指定文化財と20件の国登録文化財がある。市指定文化財については、昭和47年4月に制定された「鹿児島市文化財保護条例」に基づき保護管理を実施し、文化財指定については、文化財審議会の委員等による学術調査、審議を経て市指定を行っている。

また、「喜入のリュウキュウコウガイ産地」、「異人館」、「旧島津氏玉里邸庭園」など本市が管理する国指定文化財については、補修・整備を行い、文化財の保存と活用を積極的に推進する。

② 埋蔵文化財の保護

各種開発事業に伴う発掘調査を実施するとともに、発掘する遺跡の公開や発掘成果の積極的公開を進める。

③ 文化財の活用

地域で育まれてきた文化財の調査の結果を整理し、「史跡めぐりガイドブック」、「鹿児島市遺跡分布図」、「デジタルミュージアム」等の各種手法により広く市民に情報を提供し、生涯学習や学校教育の場で活用できるように努める。

④ 郷土芸能の保護

郷土芸能団体の活動支援を経費助成等により、計画的に継続して実施するとともに、郷土芸能の映像等についても記録・保存を図る。

⑤ ふるさと考古歴史館の活用

ふるさと考古歴史館について、資料収集等の充実と活用に努めるとともに、企画展の開催や体験学習等を実施する。

⑥ 近代化産業遺産の保存・活用

「九州・山口の近代化産業遺産群」の構成資産の保存・活用に努め、関係自治体等と連携・協力を図りながら世界遺産登録を目指した取組を進める。

ふるさと考古歴史館

ふるさと考古歴史館は、先人の残した文化遺産の調査、研究及び展示を通して、本市の歴史に対する市民の理解を深めるとともに、個性豊かな市民文化の創造に資するための施設として運営されている。

1. 施設の概要

- (1) 開館 平成9年4月17日
- (2) 所在地 下福元町3763番地1（慈眼寺公園内）
- (3) 延床面積 3,194.56㎡
- (4) 建物構造 鉄筋コンクリート造2階建
- (5) 施設 1階 常設展示室 事務室 復元整理作業室 収蔵庫
2階 導入展示室 企画展示室 図書室 会議・視聴覚室
体験学習室

2. 利用の案内

- (1) 開館時間 午前9時から午後5時まで
- (2) 休館日 月曜日（休日のときは翌日）
12月29日から1月1日まで

(3) 観覧料

区 分	個 人	団体(20人以上)
一般（高校生以上）	300 円	240 円
小・中学生	150 円	120 円
年間観覧券 一般	600 円	—
年間観覧券 小・中学生	300 円	—

- 小学校に就学するまでの方は、無料です。
- 特別企画展観覧料は、その都度定めます。

3. 特 色

(1) 常設展示

鹿児島市の人々の暮らしの歴史と町の発展の歴史を、埋蔵文化財を通じて紹介し、単に出土品を陳列するだけでなく、市民に分かりやすく親しみが持てるよう最新の各種映像・音響機器やソフトを駆使し、市民参加体験型の展示を行う。

鹿児島を発掘する（導入展示）

考古ギャラリー N.G.マンロー 鹿児島の地層

鹿児島の考古学の祖N.G.マンローのロボットにより、埋蔵文化財の魅力と発掘調査風景を紹介し、埋蔵文化財の世界へ誘う。

また、考古の基本となる鹿児島の地層を紹介するとともに鹿児島の地形、地質、気候等の変化を紹介する。
原始・古代人の知恵

縄文の夜明け—掃除山の人々 旧石器時代▷縄文時代

タッチ・ミー タイムスリップ縄文人！ 草野貝塚と集落

土器クイズ 弥生時代▷古代 誇りと勇気—熊襲・隼人

国内最古の集落のひとつである掃除山遺跡を国内最大級の大型模型で復元し当時の人々の暮らしを紹介する。

また、草野貝塚からの大量の出土品を中心に、食料の確保から調理、装身具の使用例などを紹介するとともに、縄文時代の人々の暮らしをマルチ映像により再現する。

各時代の遺跡からの出土品を紹介し、あわせて、土器、石器等の道具の製作、使用方法等を各種映像機器により紹介する。

先人達の努力

中世▷近世 鹿児島城下町めぐり 絵図検索 地名検索

中世の山城、城と城下町の変遷を模型や映像により紹介するとともに、陶磁器製品等の出土品により人々の生活を紹介する。

また、「天保年間鹿児島城下絵図」を背景に当時の人々の暮らしや当時の町並みの状況、町名の由来などを紹介する。

さあ出発！（導出展示）

ビデオライブラリー 鹿児島市内の主な史跡 考古博士

市内の遺跡の状況、概要を紹介する。

展示用ガイドシートの答え合わせを行い、「考古博士」の認定証を授与する。

屋外体験ゾーン

縄文・弥生時代復元住居 高床式建物復元 復元集石

原始・古代の住居等を実物大に復元するとともに、古代服の着用体験を行う。

(2) 企画展

特別企画展「九州新幹線全線開業記念 九州縦断発掘物語」

平成22年12月22日（水）～平成23年6月5日（日）

- 九州新幹線全線開業にあたり、福岡、熊本、鹿児島3県での発掘調査における成果を紹介するとともに、新幹線の歴史や関連資料を展示する。

「縄文人の夏休み絵日記」

平成23年7月2日（土）～8月31日（水）

- もし、縄文時代の子どもたちが絵日記をかいていたら…土器、骨・貝製品などの道具を使っていた当時の生活の様子を、子どもの目線で絵日記風に紹介する。

特別企画展「薩摩人の祈り — 廃仏毀釈 —」

平成23年9月17日（土）～12月4日（日）

- 江戸期から明治にかけての鹿児島の宗教政策に関する歴史資料や本市における寺院の発掘調査の成果を展示し、鹿児島における「廃仏毀釈」の検証を行い、薩摩人の信仰を考える展示とする。

「かごしまの正月のあそび2011」（仮称）

平成23年12月17日（土）～平成24年2月12日（日）

- 鹿児島の正月の遊びとして、凧やコマなどの展示を行なう。

「時間を越えて甦る古代からのメッセージ～市内の遺跡発掘調査速報展2011～」(仮称)

平成24年3月3日（土）～6月3日（日）

- 平成22年度の発掘調査で出土した資料を展示し、鹿児島市内の身近な遺跡や文化財に親しみを持ってもらう。

(3) 図書室

考古、歴史に関する専門書、児童図書、郷土関係図書などの蔵書約2,000冊を備えている。

(4) 会議・視聴覚

考古、歴史に関するビデオ上映や講演会などを行う。

(5) 体験学習室

古代の生活の一部を体験してもらうため「勾玉づくり」、「土器づくり」、「土笛・土鈴づくり」などの体験学習を行う。

4. 利用実績

(単位：人)

年 度		H18	H19	H20	H21	H22
常設展示 観 覧 者	有 料	7,521	7,329	10,116	11,814	9,614
	無 料	8,322	8,347	10,308	11,157	10,886
	計	15,843	15,676	20,424	22,971	20,500
その他入館者		55,322	55,525	59,090	69,256	65,658
合 計		71,165	71,201	79,514	92,227	86,158

科学館

市制100周年記念事業の一環として、図書館との複合施設として開館した。

鹿児島を代表する火山、ロケットなどを科学のテーマとして取り上げ、自然界の法則や科学技術及び宇宙を分かりやすく紹介し、新鮮で感動的な出会いをとおして、科学に対する青少年の夢や創造性を育み、併せて科学知識の普及向上を図っている。

1. 施設の概要

- (1) 開館 平成2年12月17日
- (2) 所在地 鴨池二丁目31番18号
- (3) 延床面積 5,981.34㎡
- (4) 構造規模 鉄骨鉄筋コンクリート造, 地上6階建
- (5) 館内案内
 - 〔1階〕 管理事務室, 中央監視室
 - 〔2階〕 科学館入口, 飲食コーナー
 - 〔3階〕 展示ゾーン (鹿児島の自然), 科学実験室, 科学工作室, パソコン学習室, 企画展示室
 - 〔4階〕 展示ゾーン (宇宙の探求と開発・環境と技術・コミュニケーション技術)
 - 〔5・6階〕 宇宙劇場

2. 利用の案内

- (1) 開館時間 午前9時30分から午後6時まで (入館は午後5時30分まで)
- (2) 休館日 火曜日 (祝日, 1月2日・3日の場合はその後の平日)
12月29日から1月1日まで
- (3) 料 金

〈入館料〉

区 分	個 人	団 体 (20人以上)	回数券 (11回分)
大人(高校生以上)	400円	320円	4,000円
小人(小・中学生)	150円	120円	1,500円

〈年間パスポート料金〉

区分 券種類	大人 (高校生以上)	小人 (小・中学生)
年間入館券	800円	300円
年間観覧券	1,000円	400円

〈宇宙劇場観覧料〉

① 一般投影

区 分	個 人	団 体 (20人以上)
大人(高校生以上)	500円	400円
小人(小・中学生)	200円	160円

- ② 特別投影等 一人につき1,000円以内で教育委員会が定める額
- ③ 特別展示 一人につき1,000円以内で教育委員会が定める額

※未就学児は無料。ただし、宇宙劇場で座席を占有する場合、観覧料は有料 (小人料金)

(4) 宇宙劇場上映時刻

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 第1回 10:10 (プラネタリウム) | 第2回 11:10 (ドームシネマ) |
| 第3回 13:10 (〃) | 第4回 14:10 (〃) |
| 第5回 15:10 (〃) | 第6回 16:10 (〃) |

※ 第6回は、日曜・祝日・第2・第4土曜日のみ上映

定 員 286人 上映時間 約40~50分

3. 特 色

(1) 科学展示 (常設展示物74点)

「地球から宇宙へ」をメインテーマとして展示を構成し、自分で操作し、体験することのできる展示物を数多く設置して、新鮮で感動的な科学との出会いの場を提供する。

①「鹿児島の自然」ゾーン

地球の持つ自然エネルギーを、内部からのエネルギー (マンツルの熱)、外部からのエネルギー (太陽熱) に大別し、火山、地震、気象など、鹿児島で見られる自然現象のしくみとその利用を体験するゾーン。

(風の実験) (地震シミュレーター) (鹿児島ウォッチング)

②「宇宙の探求と開発」ゾーン

宇宙開発の歩みや成果、宇宙空間の物理法則、太陽系の天体等を学び、さらに暮らしに利用されている技術を体験するゾーン。

(つるつるリンク) (太陽系惑星) (ロケットの発射)

③「環境と技術」ゾーン

ペットボトルや古新聞等のリサイクルによる環境保全や、厳しい環境で生きるためのさまざまな科学技術を体験するゾーン。

(暮らしと環境) (物質で考える技術) (極地体験)

④「コミュニケーション技術」ゾーン

アナログをデジタルに変える方法や先端技術のロボットなど、暮らしをとりまくコミュニケーション技術を体験するゾーン

(人間に近づくロボット) (ハンドスキャンテレビ)

(2) 宇宙劇場

プラネタリウムと大型全天周映画 (ドームシネマ) の上映を行う。プラネタリウムは、星空の生解説や学習投影、四季毎にテーマを変えて投影する一般投影のほか、子ども向け番組の投影も行う。

19年度に導入した光学式プラネタリウム投影機では約1,000万個の星を投影可能となり、より自然で美しい星空となった。また、全天デジタル映像システムにより、CG映像が投影可能となり、これまでのスライド投影では実現できなかった立体感や臨場感を体験出来るようになった。感動的な映像を体験できるドームシネマは、科学に関連した内容の番組を上映する。

〔規模〕 ドーム径 23m 座席数 286席 傾斜角 30度

(3) コンピュータシステム

4つの展示ゾーンに6台のコンピュータを設置し、各コーナー毎に特徴のあるソフトを使い、クイズ形式やゲームを通して科学に対する事項を楽しく学習することができる。端末の操作は、キーボードではなく、マウスを使って子どもから高齢者まで誰もがコンピュータに親しめるように配慮する。

(4) 学習教室

実験や工作、実習等をとおして、科学にじかにふれ合い、作る喜びと体験をあじわいながら科学する心を養うため、学習教室を定期的開催している。

科学実験教室、科学工作教室、パソコン教室、天文教室

(5) 出前教室

市内外の教育機関や企業等の要請に応じて館外へ出かけ、実験ショーや天体観望会を実施する。

(6) 特別教室

学校行事や親子活動等、団体入館者の要望により、実験・工作等を実施する。

(7) たのじもうサイエンス (木～日・祝)

ふるさと雇用再生特別交付金を活用して実験ショー専門の指導員を配置し、簡単な実験・工作を実施して来館者に楽しんでもらう。

(8) 科学実験ショー

学校では体験出来ない実験ショーを月毎に内容を設定して、学校休日の日に実施する。

(9) 年間パスポート会員限定上映 毎月1.3.5の土曜日 ※7/30除く

会員を対象にドームシネマを上映し、パスポートの販売促進及び利用促進を図る。

(10) その他のイベント

〔主催〕

- ① こいのぼりを作ろう 4/21～5/9
こどもの日に向けて、園児の協力をもらい、2階エントランスに鯉のぼりをあげて、雰囲気づくりを行う。
- ② スライムまつり 4/30
いろいろなスライムを作り、楽しんでもらう。
- ③ こどもまつり 5/5
中学生以下の子どもたちに対して、入館料を無料にし、科学実験ショー等を実施する。
- ④ プラネタリウム「星と音楽の夕べ」 5/14・8/6・10/29・2/18
プラネタリウムでの星空散歩と著名な歌手のCD音楽を楽しんでもらう。好天の場合は屋外での星空観望会も実施する。
- ⑤ 七夕かざり 6/9～7/8
七夕にちなみ、入館者が書いた短冊やかざり等を園児の協力をもらい、かざり付けを行う。
- ⑥ 科学館CGコンクール 7/16～8/31
イラスト作成ソフトで絵を描いてもらい、審査・表彰する。
- ⑦ 夏休み特別企画展 「ワンダフル3Dワールド～ここが立体世界の入り口だ!!～」7/15～9/4
「ホログラムトンネル」や「バーチャルマネキン」「最新3Dテレビ」などで3Dの歴史や、仕組みを楽しく学ぶ。
- ⑧ 「かごしまおもしろ科学フェスティバル2011－青少年のための科学の祭典－」7/30・7/31
県下の理系学校の教育関係者等を講師とする実験・工作ブースを30程度設置し、来場者に科学の不思議や楽しさを体験してもらう。
- ⑨ 60歳からのパソコン教室 9月 9/15・16・29・30
敬老の日を記念して、60歳以上のパソコン教室を実施する。
- ⑩ お正月科学あそび ～新年初とばし～ 1月2・3
お正月の入館者に対して、簡単な実験や工作を実施する。
- ⑪ セグウェイ体験試乗 毎月第一土曜日
電動立ち乗り2輪車セグウェイの試乗体験を実施する。

〔共催〕

- ① 「ワクワク・どきどき楽しい親子科学教室」 5月～7月の土曜日
各公民館において募集した親子を対象に実験教室を行う。(吉野・城西・伊敷公民館との共催)
- ② キッズプラネタリウム～おはなし会 6/18
子ども連れの家族を対象に、プラネタリウムでの子ども向けの星空紹介と、おはなし会&生演奏を実施する。(市立図書館との共催)
- ③ 鹿県電波適正利用推進員協議会開催の教室 6/26
協議員の指導による、AMラジオ製作教室を実施する。(鹿県電波適正利用推進員協議会との共催)
- ④ 鹿児島高専の日 8/11
鹿児島高専のいろいろなイベントを行ってもらう。(鹿児島工業高等専門学校との共催)
- ⑤ 宇宙の日作文・絵画コンテスト 5月～9月
宇宙をテーマに作文や絵画を募集し、審査・表彰を行う。(文部科学省との共催)
- ⑥ リラクゼーションインプラネタリウム 10/14
一般勤労者を対象として、星空紹介と医師等による講演を行う。(鹿児島市保健所との共催)
- ⑦ 鹿児島県発明工夫展 10/29・30
鹿児島県発明工夫展で入選した作品を展示する。((社)発明協会鹿児島支部との共催)
- ⑧ 県高等学校生徒理科学研究発表会 11/4
高校生が日頃の理科学研究の発表を行う。(鹿児島県高等学校教育研究会理科部会との共催)
- ⑨ 「ワクワク・どきどき楽しい科学の音遊び」12月と3月
市民文化ホール及びサザンホールとの連携により、大ホールや音響機器等を活用して、コンサート待ちの子ども連れなどに簡単な実験や工作を行う。(市民文化ホール及びサザンホールとの共催)

- ⑩ コズミックカレッジ キッズコース・ファンダメンタルコース 11/26・27
小中学生を対象にJAXA認定の宇宙教育リーダーによる宇宙に関する実験・工作を行う。(文部科学省後援・JAXAとの共催)
- ⑪ 「科学する心」を見つけよう写真展 7/15～9/4
ソニー教育財団「科学する心」を見つけようフォトコンテスト入賞作品を展示する。(ソニー教育財団との共催)
- ⑫ 鹿児島高専のロボットがやってきた! 1/21・22
ロボコン高専大会に参加したロボット等の演示を行う。(鹿児島工業高等専門学校との共催)
- ⑬ パパママデジカメスクール ～ホントはもっとカワイイはず～ 2/11
「科学する心」を見つけよう写真展に協賛して作品募集期間に実施する。(ふじた写真館, 鹿児島国際大学協力)
- ⑭ JAXAテレビ 通年
平成22年1月10日に締結した鹿児島市教育委員会とJAXAとの協定に基づいて, JAXAから提供された映像を放映する。(JAXAとの共催)
- ⑮ サイエンスモニター 通年
科学のおもしろさ・ふしぎさを手軽に味わってもらえるように, JST放送のサイエンスチャンネルから該当する作品を選定し, 館内で放映する。(JSTとの共催)
- ⑯ 最新宇宙情報の提供 通年
人類の宇宙活動, 日本の宇宙活動についての最新情報をJSF(宇宙フォーラム)から提供してもらい利用展開をする。(JSFとの共催)
- ⑰ おもちゃ病院 毎月第3日曜日
おもちゃ病院の先生方に, 来館者が持ってきたおもちゃの修理等をしてもらう。(おもちゃ病院との共催)

4. 利用者実績

(単位:人)

年 度		H17	H18	H19	H20	H21	H22
入 館 者	有 料	79,481	80,312	89,722	87,126	65,442	73,479
	無 料	53,926	53,938	57,880	54,751	44,944	75,786
	計	133,407	134,250	147,602	141,877	110,386	149,265
観 覧 者	有 料	49,705	42,565	65,981	58,105	44,173	51,096
	無 料	9,982	8,005	12,117	12,157	8,808	15,308
	計	59,687	50,570	78,098	70,262	52,981	66,404
合 計		193,094	184,820	225,700	212,139	163,367	215,669

かごしま近代文学館・かごしまメルヘン館

かごしま近代文学館及びかごしまメルヘン館は、鹿児島にゆかりのある作家を中心に、遺品・遺墨・初版本・自筆原稿の展示のほか、作家と鹿児島とのかかわりなどを紹介する「かごしま近代文学館」と、世界の童話・民話等を人形・映像その他により演出する「かごしまメルヘン館」との複合施設であり、本市の文学の振興及び文化の向上を図っている。

平成22年度に展示施設の全面改修を行い、子どもから大人まであらゆる世代が、さらに興味を持ち、魅力を感じる施設として、23年3月にリニューアルオープンした。

1. 施設の概要

- (1) 開館 平成10年1月29日
- (2) 所在地 鹿児島市城山町5番1号
- (3) 延床面積 5,874.31㎡
- (4) 構造規模 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 地下1階地上3階建
- (5) 館内案内
 - ①かごしま近代文学館
 - 〔地下1階〕 収蔵庫, くん蒸室, 守衛室など
 - 〔1階〕 鹿児島情熱絵巻, ゆかりの作家たちの情熱, 文学アトリエ, ライブラリー, 事務室, 喫茶室
 - 〔2階〕 鹿児島文学の群像, 向田邦子の世界, 文学ホールなど
 - ②かごしまメルヘン館
 - 〔地下1階〕 わくわくスタジオ, メルヘンホールなど
 - 〔1階〕 おはなしのまち, おはなしの散歩道, 親子読書コーナー
 - 〔2～3階〕 おはなしの散歩道, 絵本のお城

2. 利用の案内

- (1) 開館時間 午前9時30分から午後6時まで (入館は午後5時30分まで)
- (2) 休館日 火曜日 (休日のときは翌日)
12月29日から1月1日まで
- (3) 観覧料

区		分	個	人	団 体 (20人以上)
常 設 展 示	近代文学館	一 般	300円	240円	
		小 ・ 中 学 生	150円	120円	
		年 間 観 覧 券 一 般	600円	—	
		年 間 観 覧 券 小 ・ 中 学 生	300円	—	
	メルヘン館	一 般	300円	240円	
		小 ・ 中 学 生	150円	120円	
		年 間 観 覧 券 一 般	600円	—	
		年 間 観 覧 券 小 ・ 中 学 生	300円	—	
	共 通	一 般	500円	400円	
		小 ・ 中 学 生	250円	200円	
		年 間 観 覧 券 一 般	1,000円	—	
		年 間 観 覧 券 小 ・ 中 学 生	500円	—	

・ 共通…近代文学館とメルヘン館の共通券 ・ 未就学児は無料 ・ 団体は20人以内

3. 特 色

(1) かがしま近代文学館

① 「ゆかりの作家たちの情熱」

鹿児島ゆかりの5人の創作にかけた情熱を、様々なテーマの下、ジオラマや文学資料、遺愛の品々等とおして紹介する。

② 「文学アトリエ」

「ことばアトリエ」で、ことば遊びができる映像装置、ワークショップをとおして、楽しみながらことばの世界に触れられ、また、「本のひろば」で、歴代の「椋鳩十児童文学賞」受賞作品や館お薦めの本などをくつろぎながら読むことができる。

③ 「鹿児島文学の群像」

鹿児島ゆかりの22人の作家を紹介。また、様々なテーマで収蔵品展や企画展などを開催する。

④ 「向田邦子の世界」

原稿等の直筆をはじめ、遺愛の品々を展示し、向田の面影をたどり、その作品世界を紹介している。

⑤ 「文学ホール」(定員：200名)

文学講演会などの催しや様々な企画展を開催する。

⑥ 「ライブラリー」

鹿児島ゆかりの文学作品や文学雑誌等を自由に閲覧できる。

(2) かがしまメルヘン館

① 「わくわくスタジオ」

オリジナルのお話を完成させていく「まっしろな絵本」があり、また、世界各地の民族人形や日本各地の郷土玩具など様々な人形を展示している。

② 「おはなしのまち」

童話に出てくるお家やミニアスレチックなどで遊びながらお話の世界を楽しめる。

③ 「おはなしの散歩道」

『不思議の国のアリス』の世界をトリックアートなどで楽しめる。

④ 「絵本のお城」

お気に入りの絵本を手にとって読むことなどができる。

⑤ 「親子読書コーナー」

童話や絵本等をそろえ、親子でくつろぎながら読書に親しめる。

・毎週月曜日「おはなしのじかん」 ・毎週土曜日「えほんのじかん」

・毎月第2土曜日「メルヘンおはなし会」

⑥ 「メルヘンホール」(定員：100名)

大型絵本を用いたおはなし会など親子を対象にした催しの開催。

・毎月第2金曜日「わらべうた教室」 ・毎月第4土曜日「メルヘンワークショップ」

4. 利用者実績

(1) 近代文学館

(単位：人)

年 度		H18	H19	H20	H21	H22
常設展示 観 覧 者	有 料	8,992	9,065	8,637	8,348	1,401
	無 料	11,923	11,140	12,070	8,870	3,217
	計	20,915	20,205	20,707	17,218	4,618
その 他 入 館 者		27,967	30,409	27,799	26,312	7,365
合 計		48,882	50,614	48,506	43,530	11,983

※ 平成22年7月5日から23年3月29日まで休館

(2) メルヘン館

(単位：人)

年 度		H18	H19	H20	H21	H22
常設展示 観 覧 者	有 料	33,544	32,109	29,165	38,907	5,954
	無 料	26,563	26,454	23,405	27,518	6,479
	計	60,107	58,563	52,570	66,425	12,433
その他入館者		52,412	62,032	65,347	59,094	11,896
合 計		112,519	120,595	117,917	125,519	24,329

※ 平成22年7月5日から23年3月29日まで休館

鹿児島市民文化ホール

1. 施設の概要

- (1) 開館 昭和58年2月6日
- (2) 所在地 与次郎二丁目3番1号 (TEL257-8111 FAX251-4053)
- (3) 建設規模
 - ① 敷地面積 48,271.51m² (文化公園を含む)
 - ② 建築面積 8,150.62m²
 - ③ 延床面積 19,689.29m²
 - ④ 構造 鉄筋コンクリート造, 一部鉄骨造
 - ⑤ 規模 地下1階・地上5階
- (4) 利用状況 (平成22年度)
第1ホール 156,123人 第2ホール 78,404人 市民ホール 25,226人

2. 施設の案内

- (1) 第1ホール
音楽的催しに重点を置く多目的ホールで客席数1,990席 (他に車いすスペース8席)
- (2) 第2ホール
演劇の催しに重点を置く多目的ホールで客席数952席 (他に車いすスペース6席)
- (3) 市民ホール
約400人収容の平土間形式の会議室兼用のホール
- (4) 練習室
- (5) 会議室, 和室
- (6) 展望ギャラリー
- (7) 駐車場 駐車台数 373台

谷山サザンホール

1. 施設の概要

- (1) 開館 平成元年10月20日
- (2) 所在地 谷山中央一丁目4360番地 (TEL260-2033 FAX267-4256)
- (3) 建設規模
 - ① 敷地面積 6,933m²
 - ② 建築面積 3,320m²
 - ③ 延床面積 5,970m²
 - ④ 構造 鉄筋コンクリート造, 一部鉄骨造
 - ⑤ 規模 地下1階・地上2階
- (4) ホール利用状況 (平成22年度)
70,840人

2. 施設の案内

- (1) ホール
客席数800席 (他に車いすスペース6席)
- (2) 練習室
- (3) 会議室, 和室
- (4) 市民ギャラリー, 展示室
- (5) 駐車場 駐車台数 74台

西郷南洲顕彰館

1. 現 況

(1) 設置の経緯

西郷南洲顕彰館は、西郷隆盛（南洲翁）を中心とする明治維新の先覚者たちの、国家・社会に尽くされた偉業を後世に伝えるとともに、新しい時代を担う青少年の人間形成に役立てるため、西郷南洲翁を慕う全国の方々から寄付により建設された施設で昭和53年6月に鹿児島市に寄贈され、開館したものである。施設の利便性向上のため、平成22年4月にリニューアルオープンした。

(2) 所在地

鹿児島市上竜尾町2-1（南洲公園内） TEL 247-1100 ・ FAX 247-3373

(3) 施設の概要

① 本 館

- ・開 所 昭和53年7月1日
- ・延床面積 550.83㎡
- ・構造規模 鉄筋コンクリート造2階建（一部地階）

② 別館展示学習室

- ・開 所 平成13年4月1日
- ・延床面積 230㎡
- ・構造規模 鉄筋コンクリート造平屋

2. 利用の案内

(1) 開館時間 午前9時から午後5時まで（入館は午後4時30分まで）

(2) 休 館 日 月曜日（祝日の場合はその後の最初の平日）、12月29日から1月1日まで

(3) 入 館 料

公園名	名 称	入 館 料	摘 要
南洲公園	西郷南洲顕彰館	一 般 200円 小・中学生 100円	団体20人以上2割引

※ 未就学児は無料です。

3. 主な展示物

- | | |
|--|-----------------------|
| (1) 西郷隆盛の生涯（ジオラマ） | (4) 西郷隆盛の衣服、遺品、肖像画 |
| (2) 島津28代藩主斉彬公の功績 | (5) 西郷隆盛の墨跡 |
| (3) 映像ライブラリー「西郷隆盛の一生」
「西南戦争」「徳の交流」他 | (6) 西南戦争関係資料、銃弾、旗、写真等 |
| | (7) 西郷南洲遺訓集などの関係図書 |

4. 入館者数

（単位：人）

年度	大 人	小 人	小 計	大人無料	小人無料	小 計	合 計
18	13,211	1,212	14,423	2,854	2,429	5,283	19,706
19	16,098	1,444	17,542	3,516	2,872	6,388	23,930
20	21,368	1,803	23,171	3,389	2,348	5,737	28,908
21	2,083	104	2,187	6,115	2,257	8,372	10,559
22	10,598	1,284	11,882	3,195	1,281	4,476	16,358

※ リニューアルに伴う工事のため、平成21年7月～平成22年4月は別館で、無料展示を行った。

美術館

1. 沿革

美術館の敷地は、薩摩藩主島津氏の居城であった鶴丸城二の丸跡の一部である。明治年間から昭和の初期にかけて、ここに市役所があったが、昭和12年に移転し、そのあとに藤武喜左衛門氏の遺族の寄付を基金として、昭和14年7月20日、歴史館が完成した。

しかし、第二次世界大戦の終わりも間近い昭和20年6月17日夜の空襲により外かくを残して炎上した。幸いなことに館蔵品は疎開してあったため、大半は難をまぬがれた。

戦後、歴史館の復旧にあたって、美術館建設の世論が高まり、美術家を中心とする美術館建設期成同盟会の尽力と当時の市長、勝目清氏と市議会の英断により、美術館建設が決定され、昭和29年9月1日に開館した。

昭和32年6月には岩崎与八郎氏の寄付により別館が建設され、郷土の美術、工芸作品の収集展示、特別展その他の展覧会、美術教室等の開催、美術団体等に対する展示場の貸与などの各種事業を通じて美術文化の振興に寄与し、ユニークな地方美術館として全国的にも知られていた。

しかし、近代美術館としての活動を拡充しようとするとき、施設設備その他の面で不十分であった。このような状況を改善するため、昭和53年の美術館建設調査会の答申の趣旨を基調に、南九州の美術文化発展の一拠点として機能する美術館を建設することとして建設計画を進めた結果、旧美術館を解体した跡地に新美術館を建設することに決定して、昭和58年10月に工事着工、昭和60年3月30日竣工し、昭和60年10月29日開館した。

2. 施設の概要

- (1) 開館 昭和29年9月1日(昭和60年10月29日新美術館開館)
- (2) 所在地 城山町4番36号(☎224-3400)
- (3) 開館時間 午前9時30分から午後6時まで(入館は午後5時30分まで)
- (4) 休館日 月曜日(祝日のときはその翌日)
12月29日から翌年1月1日まで

(5) 建設規模

- ① 敷地面積 6,842.83m²
- ② 建築面積 2,590.23m²
- ③ 延床面積 5,469.49m²
- ④ 構造 鉄筋コンクリート造
- ⑤ 規模 地下1階、地上3階
- ⑥ 総工費 約23億円

(6) 主な施設

〔地下〕講堂、市民アトリエ(1)(2)、展示ロビー、機械部門

〔1階〕エントランスホール、一般展示室(1)(2)、収蔵庫(1)、アートライブラリー、研究調査部門、事務管理部門、搬出入部門

〔2階〕常設展示室(1)(2)(3)、企画展示室、収蔵庫(2)(3)(4)、喫茶コーナー

〔3階〕機械部門

① 部門別面積表

部門	面積	構成比	備考
展示部門	1,740.80m ²	31.83%	常設展示室、企画展示室、一般展示室、展示ギャラリー、展示ロビー
所蔵部門	707.89	12.94	収蔵庫、修理工作室、燻蒸室、写場
搬出入部門	254.74	4.66	搬出入車庫、搬出入室、作品仮置場、梱包倉庫
研究調査部門	116.08	2.12	学芸員室、書庫資料室、研究調査室
教育普及部門	434.74	7.95	講堂、市民アトリエ、アートライブラリー
事務管理部門	253.57	4.64	館長室、応接室、事務室、会議室、警備員室、印刷室
共用部門	1,166.99	21.33	エントランスホール、喫茶コーナー、休憩コーナー、エレベーター、廊下、階段
電気機械部門	794.68	14.53	
計	5,469.49	100.00	

② 展示室面積・壁面長さ

展示室名	面積	壁面の長さ			
		固定	可動	計	
常設	483.81m ²	80.4m	30.0m	110.4m	
企画	229.83	45.0	26.0	71.0	
貸展示室	一般 1	289.51	57.8	36.0	93.8
	一般 2	372.31	81.5	41.0	122.5
	展示ロビー	128.10	23.4	22.9	46.3
	講堂	129.71	0	18.8	28.8
	計	919.63	162.7	128.7	291.4
合計	1,633.27	288.1	184.7	472.8	

3. 基本方針

美術品の収集保存、常設展、企画展の実施、教育普及活動の充実等、美術館活動の積極的な推進を図り、市民の美術に対する関心と理解を深め、開かれた美術館の運営に努める。

- (1) 常設展、企画展の内容の充実を図り、すぐれた美術品の紹介に努める。
- (2) 収蔵美術品の充実・保存に努め、美術館としての機能を高める。
- (3) 学術的な調査研究を深め、美術館活動の内容の充実に努める。
- (4) アートライブラリーの整備、美術教室の開催、美術講演会の開催等、教育普及活動の充実に努める。
- (5) 美術団体等が開催するすぐれた美術展覧会の誘致を図る。

4. 事業の概要

(1) 常設展

小企画展と連動し、季節ごとにテーマを設けて特集展示を行い、できるだけ多くの収蔵品の展示に努めている。

① 郷土美術

黒田清輝、藤島武二、和田英作などの日本近代洋画、木村探元などの日本画、新納忠之介、安藤照などの彫刻、薩摩焼や薩摩切子の伝統工芸と宮之原謙などの近代工芸を展示。また、桜島が描かれた作品も展示している。

② 西洋美術

モネ、ピサロなどの印象派からセザンヌ、マチス、ピカソ、ダリ、カンディンスキー、デュビュッフエ、ステラ、ウォーホルへと続く西洋絵画とロダン、アーキベンコ、マリーニなどの彫刻を展示

(2) 特別企画展

① ラファエル前派からウィリアム・モリスへ

平成23年7月22日～9月4日

イギリス各地の美術館が所蔵する、19世紀イギリスのラファエル前派の美術作品を展示。運動の中心人物であったロセッティ、バーン=ジョーンズの作品を数多く展示するほか、その周辺作家も取り上げ運動の全体像を概観する。また、彼らの活動が象徴性、装飾性を強めながらモリスらのアーツ・アンド・クラフツ運動へと展開する様子を、家具やスタンドグラスを含めた100余点で紹介。

② 生誕130年 橋口五葉展

平成23年10月4日～11月6日

鹿児島出身の画家橋口五葉は日本画と洋画を学び、夏目漱石の『吾輩ハ猫デアル』をはじめ多くの文芸書の装丁や、雑誌の表紙絵、挿絵、ポスターデザインなどを手がけた。晩年には浮世絵の研究に打ち込み、自ら彫師と摺師を監督する自家版による木版画制作を行い「大正の歌麿」と称されている。新発見の資料多数を含む400点を超える作品により、五葉の創造の軌跡を探る。

③ 大桜島絵画展「桜島百景－画家たちが見つめた桜島－」

平成24年1月2日～2月5日

黒田清輝をはじめ梅原龍三郎や加山又造、西山英雄など近代以降の画家が描いた桜島の日本画・油彩画の作品、約70点を展示する。力強いフォルムによる生命力、時刻や季節とともにうつりかわる山肌の表情など桜島と対峙した画家たちが描いた多様な絵画を紹介する。

(3) 小企画展

- ① 見えざるものへの眼—ルドン, エルンストの版画から— 平成23年4月21日～5月8日
神秘性や人間の内面を描いた象徴主義のルドンや, 意識下の世界をテーマに制作した超現実主義のエルンストなど, 目に見えないものへまなざしを向けた作家たちの作品を展示する。
- ② ヘンリー・ムーア —造形美の魅力— 平成23年6月28日～7月18日
20世紀を代表する彫刻家ヘンリー・ムーアのブロンズ彫刻《三つの個体からなる臥像》と版画作品を同時に展示し, 作家の意図を探りながら, その造形美の魅力を紹介する。
- ③ カンディンスキーの《響き》 平成23年9月8日～9月25日
当館が所蔵するカンディンスキーの木版画集《響き》を展示し, カンディンスキーが抽象に至る過程がわかる56点の作品で, 色彩とフォルムのハーモニーを楽しんでいただく。
- ④ ステラとダインの版画 平成23年11月10日～12月25日
所蔵作品から, アメリカを代表する現代作家, フランク・ステラとジム・ダインの版画を展示し, 常設展示のステラの大作と合わせて紹介する。
- ⑤ 鹿児島近代日本画展 平成24年2月9日～3月28日
所蔵作品から, 満田天民, 丸田竹濤, 松井黎光, 古城江観らによる鹿児島の近代日本画を展示し, 洋画ばかりではない鹿児島の近代絵画の魅力を紹介する。

(4) 館外展<蔵出し美術館>

- ① 宮之原謙—陶芸の美—
平成23年7月4日～7月15日 (みなと大通り別館 市民アートギャラリー)
宮之原謙による, 斬新で現代的な感覚にあふれたデザインの施された陶器を展示する。
- ② 西洋の森, 東洋の山水—風景画の東西—
平成23年12月2日～12月12日 (谷山サザンホール展示室)
西洋の風景画と東洋の山水画を展示し, 東西で描かれた自然の対比をご覧ください。

(5) 共催展

- ① 第58回県美展 平成23年5月15日～5月22日
- ② 第62回高美展 平成23年12月9日～12月18日

(6) 市民作品公募展

境界のない公募展 ‘11～すべての出品作品を展示します～ 平成23年10月30日(日)
市民の創作した美術作品を, ジャンルを問わず幅広く公募し, 無審査で美術館前庭に展示する。人気投票による表彰などのイベントも行う。

(7) その他の主な展覧会

南日本ジュニア美術展, 鹿光展, 南日本美術展, 鹿児島水彩展

(8) 年度別観覧者状況

(単位:人)

年度	美術館主催		貸 館			蔵出し美術館	合計
	有 料 展		無 料 展				
	常設展	企画展	その他	一般展示室	地下展示室		
13	41,529	22,237	57,542	8,651	24,852		154,811
14	75,573	83,154	39,503	27,649	30,955		256,834
15	42,069	31,416	29,975	19,514	28,650		151,624
16	39,748	28,567	33,851	23,629	26,522		152,317
17	41,876	32,099	22,964	21,989	27,697		146,625
18	35,964	29,675	27,053	28,760	27,673		149,125
19	39,908	33,581	29,828	25,323	25,050		153,690
20	38,962	24,342	24,415	40,242	30,041	3,132	161,134
21	43,004	35,044	23,461	41,169	27,440	2,387	172,505
22	66,686	61,358	13,634	35,501	25,955	3,319	206,453

(9) 美術講座・講演会

美術講座

期 日	内 容	講 師	募集人数
5月5日	美術館子ども探検	上田稔館長及び学芸員	10人 (小4～小6)
6月26日	日曜美術講座「水彩による人物画」	洋画家 桶田洋明	20名
7月24日	ラファエル前派からウィリアム・モリスへ 記念ワークショップ 「スタンドグラスで遊ぼう」	美術家 三坂基文	小中生(小4以下は必ず保護者同伴) 20組
8月21日	夏休みワークショップ 「プラモデル塗装ウラわご教室」	プラモデル作家 岩重賢司	20名(小3～中学生)
8月27日 28日	経験者実技講座「裸婦油彩画 制作体験」	洋画家 諏訪敦	20名(油彩人物画経験者)
9月25日	日曜美術講座「さわりたくなる形(木彫)」	彫刻家 宮蘭広幸	20名
10月9日	生誕130年 橋口五葉展記念ワークショップ 「五葉に学ぶ多色刷木版画」	木版画家 林賢一郎	20人
11月20日	日曜美術講座 「楽しい切り絵入門講座」	切り絵作家 篠崎真康	20名
1月8日	桜島百景 記念ワークショップ 「貼り絵で再現! 桜島の巨大絵画」(仮称)	県美育協会 他	20人(小4～一般)
2月26日	はじめての銅版画	銅版画家 鶴留一文	20人

美術講演会

期 日	内 容	講 師
8月7日	「ラファエル前派からウィリアム・モリスへ」記念講演会 ラファエル前派の芸術と装飾—ロセッティ, パー ン=ジョーンズ, モリスを中心にして	筑波大学大学院准教授 山口 惠理子
10月16日	「生誕130年 橋口五葉展」記念講演会 橋口五葉 鹿児島が生んだマルチアーティスト	美術史家 岩切 信一郎
11月27日	地元講師講演会 「野外彫刻の現場」	彫刻家 池川 直
1月22日	桜島百景講演会	実践女子大学教授 児島 薫

ギャラリートーク・ビデオギャラリー

毎週土曜日 14時～	所蔵品展示作品の解説	美術館学芸員
------------	------------	--------

(10) 美術品収集保存・調査研究

絵画・彫刻・工芸等の各分野における代表的郷土作家の作品およびその系譜に関係あるもの、または鹿児島市の美術文化の振興に寄与する西洋近現代美術の作品を収集するとともに、学術的な調査研究、収蔵品の整理、点検、修復に努めている。

(11) その他

① 美術館協議会

美術館の運営に関して、館長の諮問に応える。平成17年度から市民公募による委員2名を加える。

昭和60年4月1日設置 委員10人

② 美術品選定委員会

館長の諮問に応じて、収集しようとする美術品の選定について審議する。

昭和59年4月1日設置 委員5人 構成 学識経験者

③ 美術館友の会

美術鑑賞，研究，制作，活動などにより教養を高め，美術文化の向上を図り美術館活動を援助する。

昭和37年4月1日設置 会員150人

5. 観覧料・使用料

(1) 観覧料

区 分	観 覧 料			
	個 人	20人以上の団体	年間観覧券	
常 設 展	一般	300円	1人につき240円	1人1年間につき600円
	大学生 高校生	200	〃 160	〃 400
	中学生 小学生	150	〃 120	〃 300
特別展	1人につき，2,000円以内で教育委員会が定める額			

(2) 展示室使用料

区 分	1日あたりの使用料	
	使用者が入場料金を徴収しない場合	使用者が入場料金を徴収する場合
一般展示室(1)	6,000円	7,800円
一般展示室(2)	7,700	10,000
講堂を展示室として使用する場合	2,000	2,600
展示ロビー	2,000	2,600

(3) 講堂・市民アトリエ使用料

区 分	午前9時30分 から午後1時まで	午後1時から 午後6時まで	午前9時30分 から午後6時まで
講 堂	1,500円	2,000円	3,500円
市民アトリエ (1)	1,400	1,600	3,000
市民アトリエ (2)	700	800	1,500

6. 収 蔵 品

(1) 内 訳 (平成23年3月末現在)

分 類	収 蔵 品			
	日 本	外 国	合 計	
美 術	日 本 画	96	0	96
	油 彩 画	295	28	323
	水 彩・素 描	574	5	579
	版 画	162	642	804
	彫 刻	37	10	47
	空 間 造 形	1	0	1
	工 芸 品	陶 芸	226	10
木 金 工		16	0	16
ガ ラ ス		42	0	42
そ の 他		1	0	1
小 計		285	10	295
書	51	0	51	
合 計	1,501	695	2,196	
資 料	421	7	428	
総 計	1,922	702	2,624	

(2) 平成22年度美術品収集状況

種 別	作 者 名	作 品 名
空間造形	大 川 由 香 里	《Gate to the Inside》